

## ～「受験方法」について(前半)～

## 「公立」「私立」を再度理解しよう

皆さん、6月も終わりを迎えようとしています。どう過ごしていますか？疲れが出てきているかもしれませんが、7/20(水)が一学期終業式となります。中学校生活最後の夏休みはもう目の前です。コロナ対策を丁寧に行いつつ一日一日を大切にしながら、日々頑張っていきましょう。

さて、今回の進路通信では、「受験方法」について確認したいと思います。その前に、以前の進路通信にも載せていますが、「公立高校」と「私学高校」の違いを確認しておきます。

## ◆「公立高校」

“都道府県”が運営する高校です。最近では、学校ごとに特色を強く打ち出しています。男女共学であり、入学～卒業までにかかる費用(学費・諸経費等)は比較的安いです。  
例)大阪府立三島高等学校、大阪府立春日丘高等学校 など

## ◆「私立高校」

“民間”が運営する高校です。独自の校風を持ち、宗教の授業など教育内容にも特徴があります。男子校や女子校のように男女別学のところもあります。入学～卒業までにかかる費用(学費・諸経費等)が公立と比べると4～5倍程度かかります。(ただし、学校によっては学習特待生制度があり、入学金全額免除や奨学金◎◎万円などの優遇があります。)  
例)学校法人関西金光学園金光大阪高等学校 など

さらに、詳しくお金の面でどれぐらいの違いが出てくるのかを考えてみます。ある2つの高校を例に挙げ、初年度の1年間にかかる費用の例を見てみます。

初年度一年間の費用【例】	公立A高校	私立B高校
受験料	2,200円	20,000円
入学金	5,500円	200,000円
授業料(★)	118,800円	540,000円
PTA会費	4,000円	30,000円

学年積立費	45,000円	220,000円
その他	18,450円	50,480円

★授業料に関しては、年収や所得の程度に応じて、負担額が変わってきます。



(「高等学校等就学支援金制度」「私立高校の授業料無償化制度」等)

詳細につきましては、ホームページや冊子「Dream2023」をご覧ください。

※その他の注意点※

1. 普通科以外の科は授業料が数万円高くなることもあります。
2. 上記以外にも、教科書や制服代等で10～15万円必要です。
3. 交通費やその他細かな雑費は含まれていません。
4. 京都方面の私立高校は、全般的に入学金の金額が低いですが、施設費や教育充実費等が別に必要な所が多いようです。

## 上記を踏まえつつ、「専・併」を理解しよう

では、高校受験を行う際に、大きく分けて3つの受験方法(タイプ)があります。それぞれを簡単ではありますが、紹介します。

### ①私立高校“だけ”を受験する「専願タイプ」

私立高校だけを受験することを「専願」といいます。私立高校に合格したら、必ず入学することを約束して受験する方法のことです。つまり、志望する私立高校に合格できた場合、公立高校を受験することはできません。また、入試の合格基準は、ほとんどの高校が“併願と比べて”少し低くしています。(合格しやすいという意味です。高校側からすると、「合格したら必ずあなたの高校へ行きます!」と語ってくれているので、“優遇するのは当たり前”ということではないでしょうか。)

「②併願」「③単願」は次回の進路通信に続きます。よろしくお願いします。

### 【保護者の皆様へ】

明日金曜日を〆切として、第一回進路希望調査を配布しています。各ご家庭の「現時点でのお考え」をお聞きしたく実施しています。今後の進路指導の参考にさせていただきますので、〆切を守り、お子様を通じて担任まで提出していただきますよう、ご協力をお願いします。また、進路に関する疑問等あれば、お気軽にお尋ねいただけたら幸いです。よろしくお願いいたします。